

蒲郡クラシックホテル

竹島と三河湾を見下ろす高台に、お城のような佇まいの蒲郡クラシックホテルがある。1934年創業のこのホテルは、国内初の「国際観光ホテル」（外国人観光客向け政令指定ホテル）として開業し、すぐにベーブ・ルースを擁するアメリカのオールスター野球チームを宿泊させたという由緒ある歴史を持つ。建築的に特徴的な建物や調度品は、近代的な設備を加えた以外は、その多くが開業当時のまま維持されており、当時の生活や嗜好を垣間見ることができる。ホテルの本館と敷地内にある3棟の別館とともに国の登録有形文化財になっている。

情熱のプロジェクト

現在蒲郡クラシックホテルとして知られるホテルは、織物商で財を成した名古屋の実業家、滝信四郎（1868-1938）によって設立された。滝家は蒲郡に別荘を持っており、信四郎は三河湾の風景が気に入っていた。蒲郡をより有名な観光地にすることを決意した彼は、1912年、竹島の対岸に旅館「常磐館」を開業した。

滝は川端康成（1899-1972）、谷崎潤一郎（1886-1965）、志賀直哉（1883-

1971)ら著名な文学者を常磐館に招き、蒲郡について執筆を依頼した。これらの作家の作品に紹介されたことで蒲郡は広く知られるようになり、この成功によって、滝は竹島地域の開発への決意を固めた。彼は 1930 年代初めに竹島への恒久的な橋の建設に資金を提供し、常磐館の上の丘に西洋式ホテルを建設した。

滝の決断は政府によって支持された。政府は日本の貿易収支のマイナスを是正する手段として外国人観光客を日本に呼び込もうとした。外国人観光客を受け入れるための西洋式ホテル建設に公的資金が提供されることになり、滝はその資金の一部を得るための陳情に成功した。1934 年に「蒲郡ホテル」として開業すると、すぐに海外からの客を受け入れるための条件である「国際観光ホテル」指定を受けた。

名誉あるゲストたち

蒲郡ホテルは開業からわずか数ヶ月で、おそらくその歴史の中で最も有名な海外からの訪問者たちを宿泊させた。1934 年 11 月、アメリカ大リーグのオールスターズ野球チームが、名古屋と静岡で行われたエキシビジョンゲームの拠点としてこのホテルを利用したのだ。伝説的なベーブ・ルース (1895-1948) を筆頭に、ルー・ゲーリック (1903-1941)、ジミー・フォックス

(1907-1967) といった名選手も参加した。アメリカ人選手たちは主に日本のオールスターチームと 1 ヶ月間の遠征中に 18 試合を行い、大きな注目を集め、政治的関係が緊張していた当時の日米間に親善をもたらした。

しかし、野球外交は日米の戦争を止めることはできず、日本軍は第二次世界大戦中、蒲郡ホテルを病院として使用するために接収した。戦後、米軍はホテルとその周辺をレクリエーション施設にした。竹島レストセンターとして知られるこの施設は 1952 年まで使用され、除隊した軍人が太平洋を横断する前に休息し、回復する機会を提供した。

アメリカの占領が終わるとホテルは再開・改装され、1957 年には昭和天皇（1901-1989）と香淳皇后（1903-2000）をお迎えした。さらに 2012 年には改装が完了し、蒲郡クラシックホテルとしてリニューアルオープンした。

過去への眺め

本館は海外からの観光客にアピールするために設計され、飾り破風、突き出た軒、塔のような部分など、日本の伝統的な寺院建築や城郭建築の特徴が取り入れられている。客室やレス

トランからは竹島や三河湾を見渡すことができ、当時の面影を色濃く残している。ロビーにあるシャンデリアや花をモチーフにしたエレベーターの指針盤、大理石の窓枠、ブロンズの装飾など、アール・デコ調の調度品もオリジナルだ。特にロイヤルスイートルームとホテルのメインダイニングルームは、1930年代の雰囲気醸し出している。

本館は3つの別館とともに登録有形文化財になっている。別館の2つ、「THE COVE」と「鶯宿亭」は1916年に旅館「常磐館」（1982年に取り壊された）の一部として建てられたものである。また、1936年に建てられた「六角堂」もあり、元々は「鶯宿亭」の待合室だった。

蒲郡クラシックホテルは日本クラシックホテルの会に加盟する9つのホテルのうちのひとつである。この会は、第二次世界大戦以前に設立され、文化的および／または建築的な重要性から保存指定を受けているホテルの協会である。